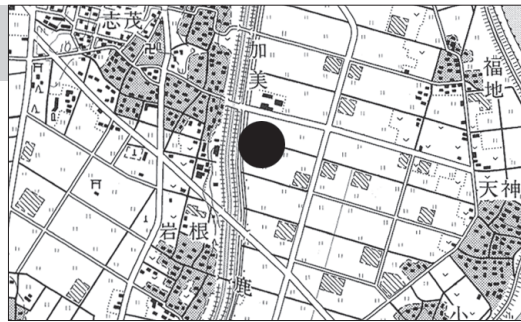


しもかけ
下懸遺跡

所在地 安城市小川町下懸
 調査理由 鹿乗川河川改修工事
 調査期間 平成12年12月～平成13年3月
 調査積 3,700 m²
 担当者 川井啓介・池本正明・竹内睦・鈴木裕・皆見秀久



調査地点 (1/2.5 万「西尾」)

調査の経過 調査は愛知県建設部河川課による鹿乗川河川改修工事に伴う事前調査として、愛知県教育委員会の委託を受けて平成12年12月から平成13年3月にかけて実施している。調査区は、これを横断する道路及び排水路により五分割して設定し、南側からA区～E区と呼称している。

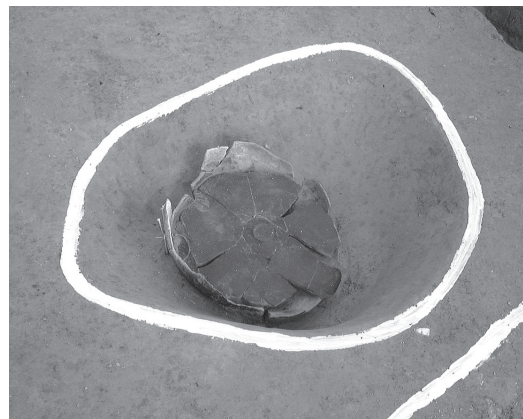
立地と環境 下懸遺跡は、安城市小川町の鹿乗川左岸に位置する。鹿乗川は、碧海台地縁辺に沿って安城市東部を南北に流れており、この碧海台地からみた外側を矢作川が並行する。周辺の地形は、これらの河川により沖積地が形成され、現況として水田や畑地が広がり、また、自然堤防上の微高地には小規模な集落が形成されている。

調査の概要 下懸遺跡は、矢作川右岸の微高地上に展開する。遺構は、時期幅があるが、いずれもほぼ同一遺構面で検出することができた。今回の調査では、弥生時代中期、弥生時代終末期から古墳時代前期、平安時代から鎌倉時代にかけての遺構をまとめて確認することができた。弥生時代中期と考えられる遺構として、E区を中心に検出された竪穴住居、土器棺墓などがあげられる。また、弥生時代終末期から古墳時代前期と考えられる遺構としては、B区を中心に検出されたS K 29の廃棄土坑、S X 04の土器集積遺構があげられる。A、B区では、谷地形が確認でき、微高地との境界部分に、廃棄土坑、土器集積遺構が確認されている。さらにこの谷地形の埋土からは、木鋤等の木製品や未製品、切断痕の確認できる原木も多数出土しており、調査区周辺に木製品の製作場所が存在した可能性が考えられる。

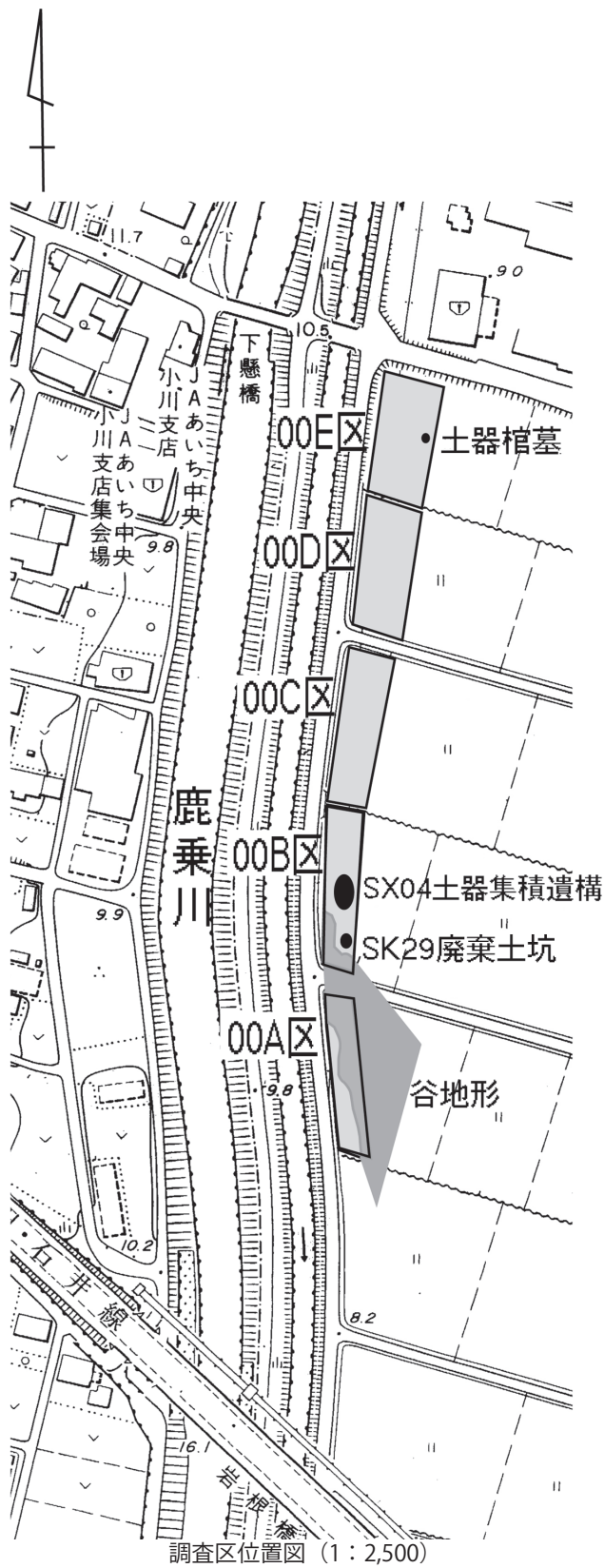
(鈴木 裕)



B区 S X 04 土器出土状況



E区 土器棺出土状況



B区 調査区全景



A区 木鍬出土状況